

2025年8月27日

大鳥羽裕太郎さん 発見 ダジャレ関連情報

2025年8月26日 日経新聞夕刊から

静岡の男性 木彫り「見て笑って」

「リョーマの休日」「仮眠ライダー」
ダジャレ刻んで400点



言葉遊びやダジャレをテーマに静岡県焼津市で木彫り作品の制作に取り組む男性がいる。日本唯一の「笑」刻家として、400点以上を仕上げた岩崎祐司さん（79）だ。自宅前に構えるギャラリーには全国各地から人が押し寄せる。「いかに面白く表現できるかが勝負。アイデアが思い付く限り、制作は終わらない」と声を弾ませる。

人気作品の一つは映画「ローマの休日」のパロディで坂本龍馬が赤バツを形にすれば、誰でもイクに乗った「リョーマの休日」。1カ月半ほどかけて制作したという「表情と作品に丸みを付けるのが大変だった」と振り返る。

岩崎さんは同市出身。20歳で実家の自転車店を引き継いだ。物作りが趣味で、35歳から仕事の合間を縫って独学で観音木彫りを始めた。もともとダジャレ好きで、文字を少し変えるだけで意味がガラッと変わる日本語に魅力を感じていた。「言葉遊びを形にすれば、誰でも

言葉遊びやダジャレをテーマに木彫り作品を制作する「笑」刻家の岩崎さん（7月、静岡県焼津市）

じっくり楽しめる」と、50歳で言葉遊びをテーマにした彫刻を思い立った。タイトルの思い付くと、ノートにイメージをデッサンし、クスノキを削って少しずつ形作る。表情や輪郭などの細部は彫刻刀で仕上げ、アクリル絵の具で色を付けて完成だ。最短3日、最長2カ月ほどで完成する。

仮面を付けた男性がバイクの上で寝そべった「仮眠ライダー」や、ウイスキーのたるに人が溺れた「酒に溺れる」など、見た人が思わずクスクスと笑ってしまう作品の制作にこだわる。

1998年から全国各地で展示会を開催し、2013年には自宅前の物置場を「ギャラリーくすくす」として公開。北海道から沖縄まで全国から観光客が訪れる。岩崎さんは「作品を見た人が笑ってくれば、幸せ」と語る。